



■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE横浜2022年版v.1.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ライフセレクトNEW横浜本店新築工事	階数	地上4F
建設地	横浜市戸塚区平戸町100, 5382-1, 5385, 2259-194, 2260-14	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,680時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年12月 予定	評価の実施日	2023年10月27日
敷地面積	13,754 m ²	作成者	中野豊明
建築面積	8,367 m ²	確認日	
延床面積	29,633 m ²	確認者	中野豊明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 100%

③ 上記+②以外の: 100%

④ 上記+: 100%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 2.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
便器の節水タイプを採用し、環境への配慮を考えました。		
Q1 室内環境 F☆☆☆☆をほぼ全面に採用	Q2 サービス性能 階高のゆとりを大きく確保した	Q3 室外環境 (敷地内) 限られた敷地配置の中で最大限緑化に努めた
LR1 エネルギー 出来る限り省エネ機器を選定した	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境 搬入車両の専用スペースを確保して、交通負荷抑制に配慮した

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

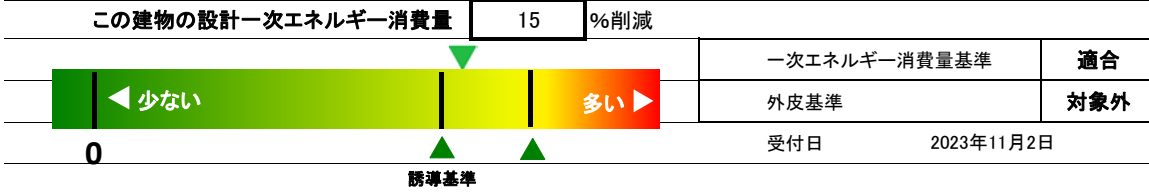


4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 (仮称)ライフセレクトNEW横浜新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 2

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑪F☆☆☆☆の内装材をほぼ全面に採用

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫高さ制限のぎりぎりまで階高をとった

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

搬入車両の専用スペースを確保した

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯鉄骨造で躯体と仕上を2段階で考えることで、建物全体の耐用年数が上がる

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2022年版v.1.1
(仮称)ライフセレクトNEW横浜新築工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質					-		-			2.5
Q1 室内環境					0.40		-			2.8
1 音環境				1.8	0.15	-	-			1.8
1.1 騒音				3.0	0.40		-			-
1.2 遮音				1.0	0.40		-			-
1		開口部遮音性能		1.0	1.00		-			-
2		界壁遮音性能		-	-		-			-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-		-			-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-		-			-
1.3 吸音				1.0	0.20		-			-
2 温熱環境				2.8	0.35	-	-			2.8
2.1 室温制御				2.6	0.50	-	-			-
1		室温	快適・働きやすさ	3.0	0.50		-			-
2		外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	1.0	0.17		-			-
3		ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	3.0	0.33		-			-
2.2 湿度制御				3.0	0.20		-			-
2.3 空調方式				3.0	0.30		-			-
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-			3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.50	-	-			-
1		昼光率	快適・働きやすさ	-	-		-			-
2		方位別開口	快適・働きやすさ	-	-		-			-
3		昼光利用設備	快適・働きやすさ	3.0	1.00		-			-
3.2 グレア対策				-	-		-			-
1		昼光制御	快適・働きやすさ	-	-		-			-
3.3 照度				-	-		-			-
3.4 照明制御				3.0	0.50		-			-
4 空気環境				3.5	0.25	-	-			3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-			-
1		化学汚染物質	快適・働きやすさ	4.0	1.00		-			-
4.2 換気				3.0	0.30	-	-			-
1		換気量	快適・働きやすさ	3.0	0.50		-			-
2		自然換気性能	快適・働きやすさ	-	-		-			-
3		取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	3.0	0.50		-			-
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-			-
1		CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	3.0	0.50		-			-
2		喫煙の制御	快適・働きやすさ	3.0	0.50		-			-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			2.9
1 機能性				3.0	0.40	-	-			3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-			-
1		広さ・収納性	快適・働きやすさ	-	-		-			-
2		高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	-	-		-			-
3		バリアフリー計画	快適・働きやすさ	3.0	1.00		-			-
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	-	-			-
1		広さ感・景観	快適・働きやすさ	4.0	0.33		-			-
2		リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	2.0	0.33		-			-
3		内装計画	快適・働きやすさ	3.0	0.33	3.0	-			-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-			-
1		維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	3.0	0.50		-			-
2		維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	3.0	0.50		-			-
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-			2.8
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-			-
1		耐震性	防災	3.0	0.80		-			-
2		免震・制振性能	防災	3.0	0.20		-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-			-
1		躯体材料の耐用年数	防災	-	-		-			-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	3.0	0.25		-			-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	3.0	0.13		-			-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	3.0	0.13		-			-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	3.0	0.25		-			-
6		主要設備機器の更新必要間隔	防災	3.0	0.25		-			-
2.4 信頼性				2.4	0.20	-	-			-
1		空調・換気設備	防災	3.0	0.20		-			-
2		給排水・衛生設備	防災	2.0	0.20		-			-
3		電気設備	防災	3.0	0.20		-			-
4		機械・配管支持方法	防災	1.0	0.20		-			-
5		通信・情報設備	防災	3.0	0.20		-			-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	-	-			3.0
3.1 空間のゆとり				3.0	0.30	-	-			-
1		階高のゆとり		3.0	0.60		-			-
2		空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-			-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	-			-
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-			-
1		空調配管の更新性		3.0	0.20		-			-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20		-			-
3		電気配線の更新性		3.0	0.10		-			-
4		通信配線の更新性		3.0	0.10		-			-
5		設備機器の更新性		3.0	0.20		-			-



CASBEE横浜2022年版v.1.1
 (仮称)ライフセレクトNEW横浜新築工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-			1.7
1		生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-			1.0
2		まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-			2.0
3		地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-			2.0
3.1		地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-			-
3.2		敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			2.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			2.4
1		建物外皮の熱負荷抑制		1.0	0.20	-	-			1.0
2		自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-			3.0
3		設備システムの高効率化		2.7	0.50	-	-			2.7
4		効率的運用		3.0	0.20	-	-			3.0
		集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-			-
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			-
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			-
		集合住宅の評価		-	-	-	-			-
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-			-
	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			2.7
1		水資源保護		3.0	0.20	-	-			3.0
1.1		節水		3.0	0.40	-	-			-
1.2		雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-			-
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-			-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			-
2		非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-			2.6
2.1		材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-			-
2.2		既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-			-
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-			-
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-			-
2.5		持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-			-
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.20	-	-			-
3		汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-			3.0
3.1		有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-			-
3.2		フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-			-
	1	消火剤		-	-	-	-			-
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-			-
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			2.5
1		地球温暖化への配慮		3.0	0.33	-	-			3.0
2		地域環境への配慮		2.1	0.33	-	-			2.1
2.1		大気汚染防止		3.0	0.25	-	-			-
2.2		温熱環境悪化の改善		1.0	0.50	-	-			-
2.3		地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-			-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			-
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	3	交通負荷抑制		5.0	0.25	-	-			-
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
3		周辺環境への配慮		2.4	0.33	-	-			2.4
3.1		騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-			-
	1	騒音		3.0	1.00	-	-			-
	2	振動		-	-	-	-			-
	3	悪臭		-	-	-	-			-
3.2		風害、砂塵、日照障害の抑制		1.6	0.40	-	-			-
	1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-			-
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-			-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-			-
3.3		光害の抑制		3.0	0.20	-	-			-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-			-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目										
<事務用途>										
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	-	-	-	-			-
<住宅用途>										
健康と安心										
1		化学汚染物質の対策		-	-	-	-			-
2		適切な換気計画		-	-	-	-			-
3		結露・カビ対策		-	-	-	-			-
4		犯罪に備える(共用部の防犯対策)		-	-	-	-			-